



ファスナーの仕組み

私は生徒に対して、行事の後などのことあるごとに友だちの「いいところさがし」「ありがとうさがし」をさせていました。また、年度末には、先生や事務室、食堂、売店、図書館・・・学校で関わる全ての人に対して「いいところさがし」「ありがとうさがし」をさせていました。



この意義については、容易に想像できると思います。人は認められるとうれしいし、その感情は伝染して、みんなの親和性が高まっていきます。そして、お互いを尊重し、個性や学習知を活かし合える集団になります。雰囲気はよくなるし、このような学習集団では、学力も向上するといった調査研究もあります。

ただ、これにはもう一つ大切な意義があると考えています。次の話を読んでみてください。

「ファスナーの仕組み」を知っていますか？あなたのファスナーについての知識を0（何一つ知らない）から10（完璧に把握している）までで評価して、その点数を書き留めてみてください。それができたら、紙にファスナーがどんな仕組みになっているか具体的な構造を絵に描いて、そこに、まだファスナーを一度も見たことがない人でも理解できるような説明を書き添えてみてください。制限時間は2分です。

できましたか？では、ここでもう一度あなたがファスナーの仕組みをどれくらい理解しているかを0から10の間で評価してみましょう。

これは「知識の錯覚」という話です。この調査研究の結果は、多くの人が自分の理解度を過大評価しているということなのです。「ファスナーの仕組み」だけでなく、「トイレの仕組み」とか「電池の仕組み」などの質問でも結果はいつも同じだったそうです。

私たちは、よく知る何かについて説明を求められると、その何かについて比較的多くのことを知っていると思い込んでいるということです。そして、きちんと説明しようとして初めて自分たちの知識が不完全なことに気付くそうです。この「知識の錯覚」は、対人においても“あるある”ではないかと思っています。

「ファスナー」「トイレ」「電池」のような無機質でシンプルなことからいってさえ、思ったほど理解できていないとしたら、日頃からよく一緒にいる「人」においても理解できていないことが多いのは当然でしょう。人の嫌なことはすぐに気付いたりもしますが、人のいいところはなかなか気付かないことが多いような気がします。

その人のいいところを自分なりに書いてみてください。書いてきちんと説明しようとする、思いはあるけどうまく書けないことがあります。だから日頃から友だちのいいところをしっかりと認識しておくことが大切です。そして、このような活動を交流させると、他の人の見方からも、その人のいいところを知ることもできます。人の考えというのは得てしまわりの影響をもとにできているので、このような「いいところさがし」のコミュニティができることは、みなさんの思考の質や行動の質を確実に高めていきます。

みなさんが日常の何かの活動で振り返る時は、必ず誰かへの「いいところさがし」や「ありがとうさがし」または「応援メッセージ」のようなことをやってみてほしいと思います。

中学生のみなさん、体育祭がんばりました。それぞれの心に大切な瞬間が生まれたと思います。言葉にして、友だちに伝えてみてください。